

食品を介したダイオキシン類等有害物質摂取量の評価と
その手法開発に関する研究

分担研究報告書

食品の塩素化ダイオキシン類、PCB 等の摂取量推定及び汚染実態の把握に関する研究

1. トータルダイエツト試料の分析による塩素化ダイオキシン類摂取量推定

研究代表者 穂山 浩 国立医薬品食品衛生研究所食品部
研究分担者 堤 智昭 国立医薬品食品衛生研究所食品部

研究要旨

マーケットバスケット方式によるトータルダイエツト(TD)試料を用いて、ダイオキシン類(PCDD/PCDFs及びCo-PCBs)の国民平均一日摂取量を推定した。国民健康・栄養調査による地域別の国民平均食品摂取量に基づいて食品を購入し、飲料水を含め14群から成るTD試料を全国7地区8機関で調製した。過去の調査からダイオキシン類摂取量に占める割合の高い食品群である10群(魚介類)及び11群(肉・卵類)については、各機関がそれぞれ各3セットの試料を調製し、その他の食品群は各1セットの試料を調製した。10及び11群については試料毎にダイオキシン類を分析し、その他の群は全地区の試料を混合して分析し、ダイオキシン類の一日摂取量を求めた。その結果、体重(50 kgと仮定)あたりのダイオキシン類の全国平均摂取量は0.51(範囲:0.25~1.13) pg TEQ/kg bw/dayと推定された。10群(魚介類)からのダイオキシン類摂取量が全体の約9割を占めていた。摂取量推定値の平均は、日本の耐容一日摂取量(4 pg TEQ/kg bw/day)の約13%であった。摂取量推定値の最大は1.13 pg TEQ/kg bw/dayであり、平均値の約2.2倍となり、耐容一日摂取量の28%程度に相当した。また、同一機関であっても推定されるダイオキシン類摂取量に1.4~3.1倍の開きがあり、10群及び11群に含まれている食品のダイオキシン類濃度が摂取量に大きな影響を与えていた。

研究協力者

(一財)日本食品分析センター
伊佐川 聡、柳俊彦、小杉正樹
国立医薬品食品衛生研究所
高附 巧、今村正隆、前田朋美、足立利華

暴露量とその経年推移に関する知見が得られている。最新の国民平均のダイオキシン類摂取量を推定するため、本年度も昨年度に引き続き全国7地区8機関において日本人の平均的な食品摂取に従ったTD試料を調製し、試料中のダイオキシン類を分析し、一日摂取量を推定した。

A. 研究目的

トータルダイエツト(TD)試料を用いたダイオキシン類の摂取量調査は、平成9年から厚生科学研究(現在は厚生労働科学研究)費補助金により、毎年実施されており、国民のダイオキシン類

B. 研究方法

1. 試料

国民平均のダイオキシン類摂取量を推定する

ためのTD試料は、全国7地区の8機関で調製した。厚生労働省が実施した平成23年～平成25年の国民健康・栄養調査の地域別食品摂取量(1歳以上)を項目ごとに平均し、各食品の地域別摂取量とした。食品は14群に大別して試料を調製した。各機関はそれぞれ約120品目の食品を購入し、地域別食品摂取量に基づいて、それらの食品を計量し、食品によっては調理した後、食品群ごとに混合均一化したものを試料とした。作製したTD試料は、分析に供すまで-20℃で保存した。

14食品群の内訳は、次のとおりである。

- 1群:米、米加工品
- 2群:米以外の穀類、種実類、いも類
- 3群:砂糖類、菓子類
- 4群:油脂類
- 5群:豆類、豆加工品
- 6群:果実、果汁
- 7群:緑黄色野菜
- 8群:他の野菜類、キノコ類、海草類
- 9群:酒類、嗜好飲料
- 10群:魚介類
- 11群:肉類、卵類
- 12群:乳、乳製品
- 13群:調味料
- 14群:飲料水

1～9群、及び12～14群は、各機関で1セットの試料を調製した。10及び11群はダイオキシン類の主要な摂取源であるため、8機関が各群3セットずつ調製した。これら3セットの試料調製では、魚種、産地、メーカー等が異なる食品を含めた。各機関で3セットずつ調製した10及び11群の試料はそれぞれの試料を分析に供した。一方、1～9群及び12～14群は、各機関の食品摂取量に応じた割合で混合した共通試料とし、分析に供した。

2. 分析対象項目及び目標とした検出下限値

分析対象項目は、WHOが毒性係数(TEF)を定めたPCDDs7種、PCDFs10種及びCo-PCBs12種の計29種とした。ダイオキシン類各異性体の目標とした検出下限値(LOD)は以下のとおりである。

	検出下限値		
	1-3,5-13群	4群	14群
PCDDs	(pg/g)	(pg/g)	(pg/L)
2,3,7,8-TCDD	0.01	0.05	0.1
1,2,3,7,8-PeCDD	0.01	0.05	0.1
1,2,3,4,7,8-HxCDD	0.02	0.1	0.2
1,2,3,6,7,8-HxCDD	0.02	0.1	0.2
1,2,3,7,8,9-HxCDD	0.02	0.1	0.2
1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	0.02	0.1	0.2
1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	0.05	0.2	0.5
PCDFs			
2,3,7,8-TCDF	0.01	0.05	0.1
1,2,3,7,8-PeCDF	0.01	0.05	0.1
2,3,4,7,8-PeCDF	0.01	0.05	0.1
1,2,3,4,7,8-HxCDF	0.02	0.1	0.2
1,2,3,6,7,8-HxCDF	0.02	0.1	0.2
1,2,3,7,8,9-HxCDF	0.02	0.1	0.2
2,3,4,6,7,8-HxCDF	0.02	0.1	0.2
1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	0.02	0.1	0.2
1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	0.02	0.1	0.2
1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	0.05	0.2	0.5
Co-PCBs			
3,3',4,4'-TCB(#77)	0.1	0.5	1
3,4,4',5-TCB(#81)	0.1	0.5	1
3,3',4,4',5-PeCB(#126)	0.1	0.5	1
3,3',4,4',5,5'-HxCB(#169)	0.1	0.5	1
2,3,3',4,4'-PeCB(#105)	1	5	10
2,3,4,4',5-PeCB(#114)	1	5	10
2,3',4,4',5-PeCB(#118)	1	5	10
2',3,4,4',5-PeCB(#123)	1	5	10
2,3,3',4,4',5-HxCB(#156)	1	5	10
2,3,3',4,4',5'-HxCB(#157)	1	5	10
2,3',4,4',5,5'-HxCB(#167)	1	5	10
2,3,3',4,4',5,5'-HpCB(#189)	1	5	10

3. 分析方法

ダイオキシン類の分析法は、「食品中のダイオキシン類測定方法ガイドライン」(厚生労働省、平成20年2月)に従った。詳細な分析条件については昨年度の報告書¹⁾に記載した。

4. 分析結果の表記

調査結果は、一日摂取量を体重あたりの毒性等量(pg TEQ/kg bw/day)で示した。TEQの算出には2005年に定められたTEFを使用し、分析値がLOD未満の異性体濃度をゼロとして計算(以下、ND=0と略す)した。Global Environment Monitoring System(GEMS)では、分析値がLOD未満となった場合はND=LOD/2として摂取量を推定する方法も示されているが、これはNDとなった試料が全分析試料の60%以下であることが適用の条件になっている。昨年度の報告書で示したとおり、10群と11群以外では異性体の検出率は極めて低くなる。このようなことから、ND=LOD/2により推定したダイオキシン類摂取量の信頼性は低く、摂取量を著しく過大評価する可能性が高いため、ND=0として摂取量を推定した結果のみを示した。

C. 研究結果及び考察

7地区の8機関において調製したTD試料を分析し、ダイオキシン類摂取量及び各群からの摂取割合を算出した。表1~3には、ND=0の場合のPCDD/PCDFs、Co-PCBs及び両者を合計したダイオキシン類の値を示した。また、10及び11群は機関毎に3試料からの分析値が得られるので、表1~3では10及び11群の各群からのダイオキシン類摂取量の最小値の組み合わせを#1、中央値の組み合わせを#2、最大値の組み合わせを#3と示した。従って、PCDD/PCDFs及びCo-PCBs摂取量の最小値、中央値、最大値と#1、#2、#3とは必ずしも一致しない。

1. PCDD/PCDFs 摂取量

PCDD/PCDFsの一日摂取量は、平均8.31(範囲:3.23~28.60)pg TEQ/person/dayであった。これを、日本人の平均体重を50kgとして、体重(kg)あたりの一日摂取量に換算すると、平均0.17(範囲:0.06~0.57)pg TEQ/kg bw/dayとなった(表1)。昨年度は平均0.21(範囲:0.06~1.04)pg TEQ/kg bw/dayであり¹⁾、今年度の平均値はやや低い値であった。また、今年度の最大値は昨年度と比較すると約半分であった。最大値は東北地区で作製した10群試料(#3)であった。PCDD/PCDFs摂取量に対する寄与率が高い食品群は、10群(魚介類)80.1%、11群(肉・卵類)17.4%であり、これら2群で全体の97.5%と大部分を占めた。

2. Co-PCBs 摂取量

Co-PCBsの一日摂取量は、平均17.21(範囲:8.39~32.08)pg TEQ/person/dayであり、体重あたりの摂取量は平均0.34(範囲:0.17~0.64)pg TEQ/kg bw/dayであった(表2)。昨年度は平均0.44(範囲:0.15~0.94)pg TEQ/kg bw/dayであり¹⁾、今年度の平均値はやや低い値であった。また、最大値は関西地区で作製した10群試料(#3)であった。今年度の最大値は昨年度と比較すると3割ほど低い値であった。Co-PCBs摂取量に対する寄与率が高い食品群は、10群(魚介類)96.1%、11群(肉・卵類)3.90%であり、これら2群で全体の99.9%と大部分を占めた。

3. ダイオキシン類摂取量

PCDD/PCDFsとCo-PCBsを合わせたダイオキシン類の一日摂取量は、平均25.52(範囲:12.53~56.65)pg TEQ/person/dayであり、体重あたりの摂取量は平均0.51(範囲:0.25~1.13)pg TEQ/kg bw/dayであった(表3)。平均値は日本のTDI(4pg TEQ/kg bw/day)の13%程度であり、最大値はTDIの28%程度に相当した。昨年度は平均0.65(範囲:0.21~1.77)pg TEQ/kg bw/dayであり¹⁾、今年度の平均値は昨年度より2

割ほど低い値であった。

ダイオキシン類摂取量に対する寄与率が高い食品群は、10 群(魚介類)90.9%、11 群(肉・卵類)8.3%であり、これら2群で全体の99.1%を占めた。この傾向は昨年度の調査と同様の傾向であった。また、ダイオキシン類摂取量に占めるCo-PCBsの割合は、67%であった。一昨年度及び昨年度における割合は共に67%であり^{1, 2)}、ほぼ7割を推移している。

本研究では、ダイオキシン類摂取への寄与が大きい10群及び11群の試料を各機関で各3セット調製し、ダイオキシン類摂取量の最小値、中央値及び最大値を求めている。今年度は、同一機関であっても、推定されるダイオキシン類摂取量の最小値と最大値には1.4~3.1倍の開きがあった。昨年度は同一機関における最小値と最大値の開きは1.2~6.9倍であり¹⁾、今年度は最小値と最大値の開きが昨年度と比べ小さかった。

4. ダイオキシン類摂取量の経年変化

平成10年以降の調査で得られたダイオキシン類摂取量の平均値の経年変化を図1に示した。全食品群からの合計値の他、ダイオキシン類摂取量に大きな割合を占めた10群と11群からの摂取量についてもあわせて示した。平成29年度までの摂取量は、平成29年度厚生労働行政推進調査事業費補助金研究報告書¹⁾から引用した。ダイオキシン類摂取量の合計値は、平成10年度以降、若干の増減はあるものの緩やかな減少傾向を示している。本年度の平均値は0.51 pg TEQ/kg bw/dayであり、平成10年度以降の調査結果の中で最も低い値であった。また、調査開始時の平成10年度の摂取量は1.75 pg TEQ/kg bw/dayであり、これと比較すると今年度の平均値は29%程度であった。同様に、10群からの摂取量も、調査期間内で緩やかな減少を示していた。一方、11群からの摂取量は、平成18年度までに大きく減少し、その後は低い値でほぼ一定となっていた。このように、ダイオキシン類

摂取量の減少には、平成18年度までは10群と11群からの摂取量の減少が寄与していたが、平成18年度以降は、主として10群からの摂取量の減少が寄与していた。

ダイオキシン類摂取量はTD試料中のダイオキシン類濃度と各食品群の食品摂取量を乗じて求められる。ダイオキシン類摂取量が減少した要因について考察するため、ダイオキシン類摂取量に占める割合が大きい10群及び11群のダイオキシン類濃度の平均値の経年変化を図2に示した。10群及び11群のダイオキシン類濃度は図1で示したダイオキシン類摂取量とよく似た減少傾向を示していた。日本ではCo-PCBsを含むPCB製品の使用が1972年に禁止されている。また、PCDD/PCDFsを不純物として含むことが知られている農薬(クロロニトロフェン及びペントクロロフェノール)の農薬登録が1970年代に失効している。さらには、平成11年に制定されたダイオキシン類対策特別措置法により、焼却施設等からのダイオキシン類の排出が大幅に抑制されている。10群及び11群のダイオキシン類濃度の低下についてはこれらの行政施策の効果が窺われた。また、各年の調査で用いた10群と11群の一日あたりの食品摂取量(g/day)を図3に示した。11群の食品摂取量は調査開始時の平成10年度からほぼ横ばいで推移しているが、10群の食品摂取量は近年ゆるやかな減少を示しており、今年度の10群の食品摂取量は平成10年度と比較して約75%に減少していた。食生活の多様化に伴う魚介類摂取量の減少も部分的にダイオキシン類摂取量の減少に寄与していると考えられた。

5. 日本と諸外国におけるダイオキシン類摂取量の比較

日本と諸外国のダイオキシン類摂取量を比較するため、過去10年間に実施された主な諸外国のTD調査によるダイオキシン類一日摂取量を表4に示した。ダイオキシン類摂取量の推定には、分析法のLOD、LODの取り扱い、また対

象とした年齢層などの違いが影響するため、各国のダイオキシン類摂取量を単純に比較することは難しい。これらの点に留意する必要があるが、日本のダイオキシン類摂取量は諸外国で報告されているダイオキシン類摂取量の範囲内であり、特に高いことはなかった。

D. 結論

全国7地区8機関で調製したTD試料によるダイオキシン類の摂取量調査を実施した結果、平均一日摂取量は0.51 pg TEQ/kg bw/dayであった。ダイオキシン摂取量は行政施策の効果などもあり経年的な減少傾向が示唆されている。しかし、依然としてTDIの13%程度を占めており、この値は有機塩素系農薬等のその他の多くの有害化学物質と比較すると高い値である。今後もダイオキシン摂取量調査を継続し、ダイオキシン類摂取量の動向を注意深く観察していく必要がある。

E. 参考文献

- 1) 平成 29 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金研究報告書「食品を介したダイオキシン類等有害物質摂取量の評価とその手法開発に関する研究」分担研究報告書(食品の塩素化ダイオキシン類、PCB 等の摂取量推定及び汚染実態の把握に関する研究)
- 2) 平成 28 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金研究報告書「食品を介したダイオキシン類等有害物質摂取量の評価とその手法開発に関する研究」分担研究報告書(食品の塩素化ダイオキシン類、PCB 等の摂取量推定及び汚染実態の把握に関する研究)
- 3) Windal I, Vandevijvere S, Maleki M, Gosciny S, Vinkx C, Focant J, Eppe G, Hanot V, Van Loco J: Dietary intake of

PCDD/Fs and dioxin-like PCBs of the Belgian population. *Chemosphere*, 2010;79:334-340.

- 4) Perelló G, Gómez-Catalán J, Castell V, Llobet JM, Domingo JL: Assessment of the temporal trend of the dietary exposure to PCDD/Fs and PCBs in Catalonia, over Spain: Health risks. *Food Chem. Toxicol.*, 2012;50:399-408.
- 5) Wong WWK, Yip YC, Choi KK, Ho YY, Xiao Y: Dietary exposure to dioxins and dioxin-like PCBs of Hong Kong adults: results of the first Hong Kong Total Diet Study. *Food Additives & Contaminants: Part A*, 2013;30:2152-2158.
- 6) Zhang L, Yin S, Wang X, Li J, Zhao Y, Li X, Shen H, Wu Y: Assessment of dietary intake of polychlorinated dibenzo-*p*-dioxins and dibenzofurans and dioxin-like polychlorinated biphenyls from the Chinese Total Diet Study in 2011. *Chemosphere*, 2015;137:178-184.
- 7) Bramwell L, Mortimer D, Rose M, Fernandes A, Harrad S, Pless-Mulloli T: UK dietary exposure to PCDD/Fs, PCBs, PBDD/Fs, PBBs and PBDEs: comparison of results from 24-h duplicate diets and total diet studies. *Food Additives & Contaminants: Part A*, 2017: 34:65-77.

F. 研究業績

1. 論文発表

- 1) Tsutsumi T, Matsuda R, Yanagi T, Iizuka S, Isagawa S, Takatsuki S, Watanabe T, Teshima R, Akiyama H: Dietary intake of dioxins in Japan in 2016 with time trends since 1998. *Food Additives & Contaminants: Part A*, 2018;35:1553-1564.

2. 学会発表

1) Imamura M, Takatsuki S, Tsutsumi T, Maeda T, Akiyama H: Estimation dioxin intakes from commercial baby foods in Japan. 38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2018.8)

2) 今村正隆, 堤 智昭, 高附 巧, 前田 朋美, 伊佐川聡, 柳 俊彦, 飯塚誠一郎, 穠山浩: マーケットバスケット方式によるダイオキシン類の一日摂取量調査, 第55回全国衛生化学技術協議会年会 (2018.11).

【謝辞】

TD 試料の調製にご協力いただいた研究機関の諸氏に感謝いたします。

表1 平成30年度トータルダイエイト(1~14群)からのダイオキシン(PCDDs+PCDFs)1日摂取量(ND=0)

食品群	(pgTEQ/dsv)																				
	北海道地区			東北地区			関東地区			中部地区			関西地区								
	I			II			I			II			I			II					
1群(米、米加工品)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
2群(米以外の穀類、種実類、いも類)	0.02			0.02			0.02			0.02			0.02			0.02			0.02		
3群(砂糖類、菓子類)	0.02			0.02			0.02			0.02			0.02			0.02			0.02		
4群(油脂類)	0.02			0.02			0.02			0.02			0.02			0.02			0.02		
5群(豆・豆加工品)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
6群(果実、果汁)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
7群(緑黄色野菜)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
8群(他の野菜類、キノコ類、海藻類)	0.07			0.07			0.07			0.07			0.07			0.07			0.07		
9群(酒類、嗜好飲料)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
10群(魚介類)	3.96	5.95	8.82	#1	#2	#3	5.99	5.04	18.77	#1	#2	#3	4.11	5.82	6.50	2.98	3.92	5.67	3.07	3.80	11.86
11群(肉類・卵類)	0.05	0.03	0.04	0.89	4.86	9.62	0.23	0.47	0.92	0.23	0.47	0.92	0.03	0.06	0.11	0.04	0.11	2.18	2.44	3.05	3.91
12群(乳・乳製品)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
13群(調味料)	0.07			0.07			0.07			0.07			0.07			0.07			0.07		
14群(飲料水)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
総摂取量(pgTEQ/day)	4.21	6.19	9.06	6.48	10.11	28.60	6.88	12.19	12.85	4.35	6.08	6.81	3.23	4.23	8.05	5.72	7.06	15.97	5.72	7.06	15.97
摂取量(pgTEQ/kg bw/day)	0.08	0.12	0.18	0.13	0.20	0.57	0.14	0.24	0.26	0.09	0.12	0.14	0.06	0.08	0.16	0.11	0.14	0.32	0.11	0.14	0.32

食品群	中国・四国地区			九州地区			平均摂取量			標準偏差			比率(%)		
	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3
1群(米、米加工品)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
2群(米以外の穀類、種実類、いも類)	0.02			0.02			0.02			0.02			0.00		
3群(砂糖類、菓子類)	0.02			0.02			0.02			0.02			0.00		
4群(油脂類)	0.02			0.02			0.02			0.02			0.00		
5群(豆・豆加工品)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
6群(果実、果汁)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
7群(緑黄色野菜)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
8群(他の野菜類、キノコ類、海藻類)	0.07			0.07			0.07			0.07			0.00		
9群(酒類、嗜好飲料)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
10群(魚介類)	5.80	4.85	6.15	#1	#2	#3	3.90	6.21	7.42	6.66			3.62		
11群(肉類・卵類)	0.05	0.71	1.32	0.04	0.93	2.85	1.45			2.23			2.23		
12群(乳・乳製品)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
13群(調味料)	0.07			0.07			0.07			0.07			0.00		
14群(飲料水)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
総摂取量(pgTEQ/day)	6.05	5.76	7.68	4.14	7.34	10.47	8.31			5.30			100.00		
摂取量(pgTEQ/kg bw/day)	0.12	0.12	0.15	0.08	0.15	0.21	0.17			0.11					

* 一部の地域(北海道及び東北地区、中国・四国及び九州地区)の食品群1~9、12~14群は共通試料を使用した。

** 食品群10及び11におけるダイオキシン類(PCDDs+PCDFs+Co-PCBs)摂取量(ND=0)の最小値の組み合わせを#1、中央値の組み合わせを#2、最大値の組み合わせを#3とした。

表2 平成30年度トータルダイエイト(1~14群)からのCo-PCBs類1日摂取量(ND=0)

食品群	北海道地区			東北地区			関東地区						中部地区			関西地区		
							I			II								
	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3
1群(米、米加工品)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
2群(米以外の穀類、種実類、いも類)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
3群(砂糖類、菓子類)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
4群(油脂類)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
5群(豆・豆加工品)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
6群(果実、果汁)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
7群(緑黄色野菜)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
8群(他の野菜類、キノコ類、海藻類)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
9群(酒類、嗜好飲料)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
10群(魚介類)	9.96	12.18	18.43	11.81	13.18	26.86	13.49	24.31	28.01	14.75	14.38	19.42	10.91	12.72	12.65	10.88	13.57	29.99
11群(肉類・卵類)	0.02	0.05	1.78	0.05	1.40	1.19	0.02	0.06	2.37	0.01	0.01	2.13	0.03	0.05	0.06	1.60	1.14	2.08
12群(乳・乳製品)	0.01			0.01			0.01			0.01			0.01			0.01		
13群(調味料)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
14群(飲料水)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
総摂取量(µg TEQ/day)	9.99	12.23	20.22	11.87	14.59	28.05	13.52	24.38	30.39	14.76	14.40	21.56	10.95	12.77	12.71	12.49	14.72	32.08
摂取量(µg TEQ/kg bw/day)	0.20	0.24	0.40	0.24	0.29	0.56	0.27	0.49	0.61	0.30	0.29	0.43	0.22	0.26	0.25	0.25	0.29	0.64

食品群	中国・四国地区			九州地区			平均摂取量			標準偏差			比率(%)		
	#1	#2	#3	#1	#2	#3									
1群(米、米加工品)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
2群(米以外の穀類、種実類、いも類)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
3群(砂糖類、菓子類)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.01		
4群(油脂類)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
5群(豆・豆加工品)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
6群(果実、果汁)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
7群(緑黄色野菜)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
8群(他の野菜類、キノコ類、海藻類)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
9群(酒類、嗜好飲料)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
10群(魚介類)	14.46	15.75	20.46	8.34	15.99	24.24	16.53			6.09			96.05		
11群(肉類・卵類)	0.03	0.05	0.07	0.04	1.83	0.02	0.67			0.87			3.90		
12群(乳・乳製品)	0.01			0.01			0.01			0.00			0.04		
13群(調味料)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
14群(飲料水)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
総摂取量(µg TEQ/day)	14.51	15.81	20.53	8.39	17.83	24.27	17.21			6.55			100.00		
摂取量(µg TEQ/kg bw/day)	0.29	0.32	0.41	0.17	0.36	0.49	0.34			0.13					

* 一部の地域(北海道及び東北地区、中国・四国及び九州地区)の食品群1~9、12~14群は共通試料を使用した。

** 食品群10及び11におけるダイオキシン類(PCDDs+PCDFs+Co-PCBs)摂取量(ND=0)の最小値の組み合わせを#1、中央値の組み合わせを#2、最大値の組み合わせを#3とした。

表3 平成30年度トータルダイエイト(1~14群)からのダイオキシン類1日摂取量(ND=0)

食品群	(pgTEQ/day)																	
	北海道地区			東北地区			関東地区			中部地区			関西地区					
	I			II			I			II			I			II		
1群(米、米加工品)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
2群(米以外の穀類、種実類、いも類)	0.02			0.02			0.02			0.02			0.02			0.02		
3群(砂糖類、菓子類)	0.03			0.03			0.03			0.03			0.03			0.03		
4群(油脂類)	0.02			0.02			0.02			0.02			0.02			0.02		
5群(豆・豆加工品)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
6群(果実、果汁)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
7群(緑黄色野菜)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
8群(他の野菜類、キノコ類、海藻類)	0.07			0.07			0.07			0.07			0.07			0.07		
9群(酒類、嗜好飲料)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
10群(魚介類)	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3
11群(肉類・卵類)	13.91	18.13	27.25	17.40	18.23	45.63	19.94	35.82	39.73	18.86	20.20	25.92	13.89	16.64	18.32	13.95	17.37	41.84
12群(乳・乳製品)	0.07	0.08	1.82	0.74	6.26	10.81	0.26	0.53	3.30	0.04	0.07	2.24	0.08	0.15	2.23	4.04	4.20	5.98
13群(調味料)	0.01			0.01			0.01			0.01			0.01			0.01		
14群(飲料水)	0.07			0.07			0.07			0.07			0.07			0.07		
総摂取量(pgTEQ/day)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
摂取量(pgTEQ/kg bw/day)	14.20	18.42	29.27	18.35	24.70	56.65	20.41	36.57	43.24	19.11	20.48	28.37	14.18	17.01	20.76	18.20	21.78	48.04
	0.28	0.37	0.59	0.37	0.49	1.13	0.41	0.73	0.86	0.38	0.41	0.57	0.28	0.34	0.42	0.36	0.44	0.96

食品群	中国・四国地区			九州地区			平均摂取量			標準偏差			比率(%)		
	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3
1群(米、米加工品)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
2群(米以外の穀類、種実類、いも類)	0.02			0.02			0.02			0.00			0.00		
3群(砂糖類、菓子類)	0.03			0.03			0.03			0.00			0.00		
4群(油脂類)	0.02			0.02			0.02			0.00			0.00		
5群(豆・豆加工品)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
6群(果実、果汁)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
7群(緑黄色野菜)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
8群(他の野菜類、キノコ類、海藻類)	0.07			0.07			0.07			0.00			0.00		
9群(酒類、嗜好飲料)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
10群(魚介類)	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3
11群(肉類・卵類)	20.26	20.60	26.61	12.24	22.20	31.66	23.19			9.34			90.87		
12群(乳・乳製品)	0.09	0.76	1.38	0.08	2.76	2.87	2.12			2.65			8.30		
13群(調味料)	0.01			0.01			0.01			0.00			0.03		
14群(飲料水)	0.07			0.07			0.07			0.00			0.26		
総摂取量(pgTEQ/day)	0.00			0.00			0.00			0.00			0.00		
摂取量(pgTEQ/kg bw/day)	20.56	21.58	28.21	12.53	25.17	34.74	25.52			11.13			100.00		
	0.41	0.43	0.56	0.25	0.50	0.69	0.51			0.22					

* 一部の地域(北海道及び東北地区、中国・四国及び九州地区)の食品群1~9、12~14群は共通試料を使用した。
 ** 食品群10及び11におけるダイオキシン類(PCDDs+PCDFs+Co-PCBs)摂取量(ND=0)の最小値の組み合わせを#1、中央値の組み合わせを#2、最大値の組み合わせを#3とした。

表 4 日本と主な諸外国の TD 調査におけるダイオキシン類摂取量推定値

国	調査時期*	ダイオキシン類平均摂取量 pg TEQ/kg bw/day	対象とした 年齢層	検出下限値 の取り扱い**	参考文献
日本	2016年(平成28年度)	0.54			2)
	2017年(平成29年度)	0.65	1歳以上	ND=0	1)
	2018年(平成30年度)	0.51			本研究
ベルギー	2008年	0.61	15歳以上	ND=LOD/2	3)
スペイン	2008年	0.60	成人	ND=LOD/2	4)
中国	2010-2011年	0.73 ***	20-84歳	ND=LOD/2	5)
	2011年	0.59	18-45歳	ND=0	6)
イギリス	2011-2012年	0.52	19歳以上	ND=LOD	7)

* 食品試料を集めた時期

** 検出下限値未満のダイオキシン類をゼロとして計算した場合はND=0、検出下限値の1/2を当てはめた場合はND=LOD/2、検出下限値を当てはめた場合はND=LODと示した。

*** 原著では一ヶ月あたりのDXNs摂取量が示されていたため、30日で除した値を一日摂取量として示した。

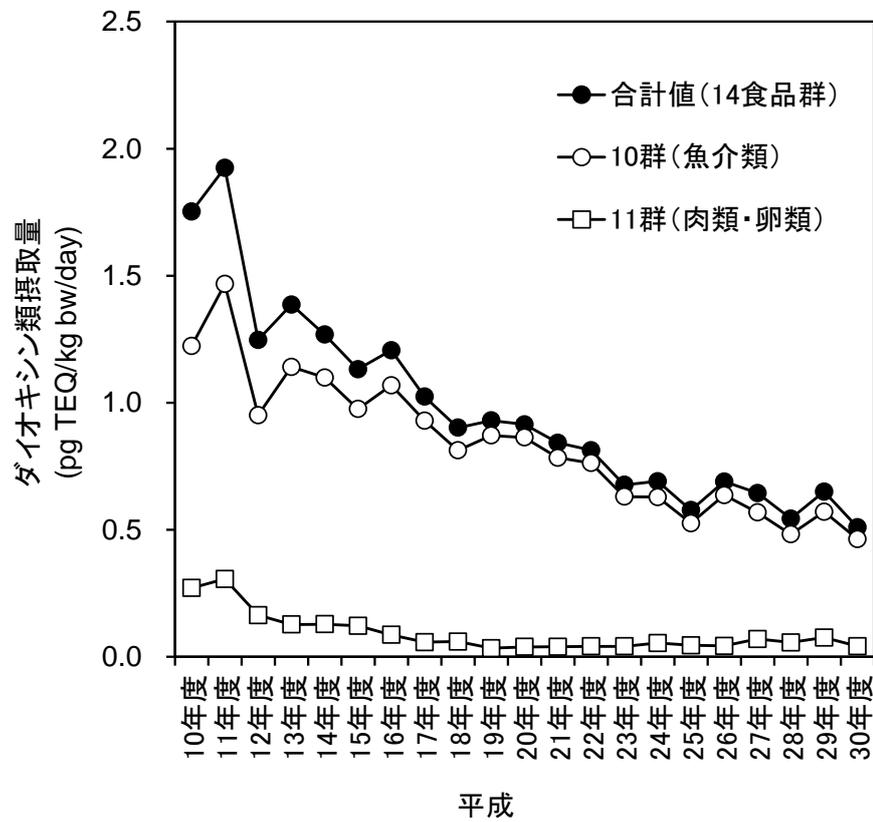


図1 ダイオキシン類摂取量(平均値)の経年変化

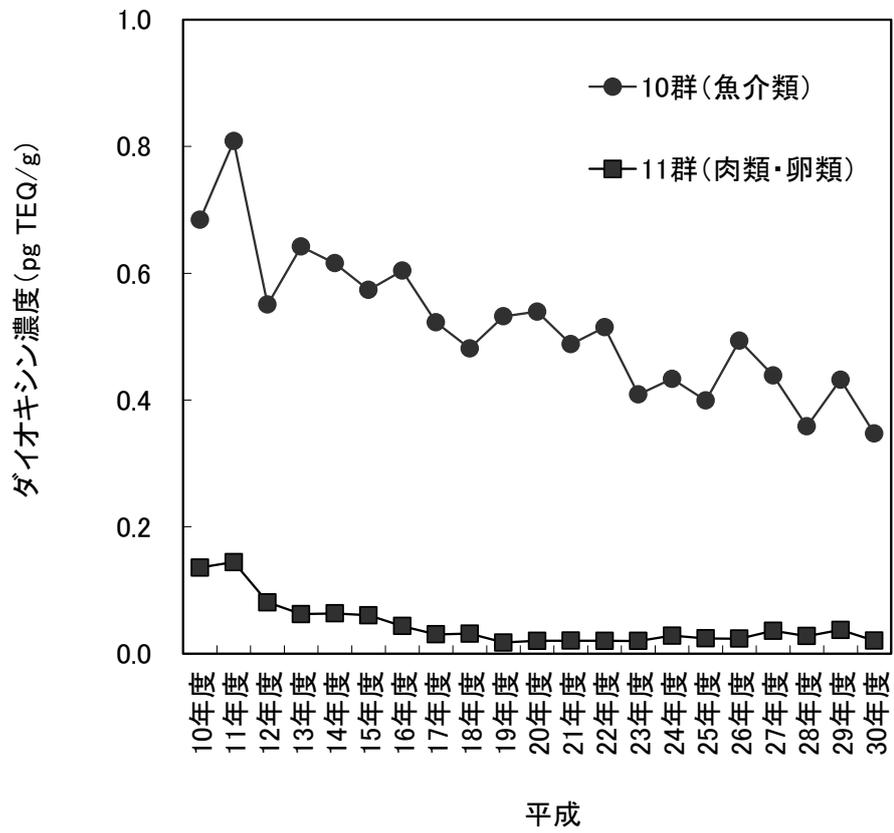


図 2 10 群及び 11 群のダイオキシン類濃度(平均値)の経年変化

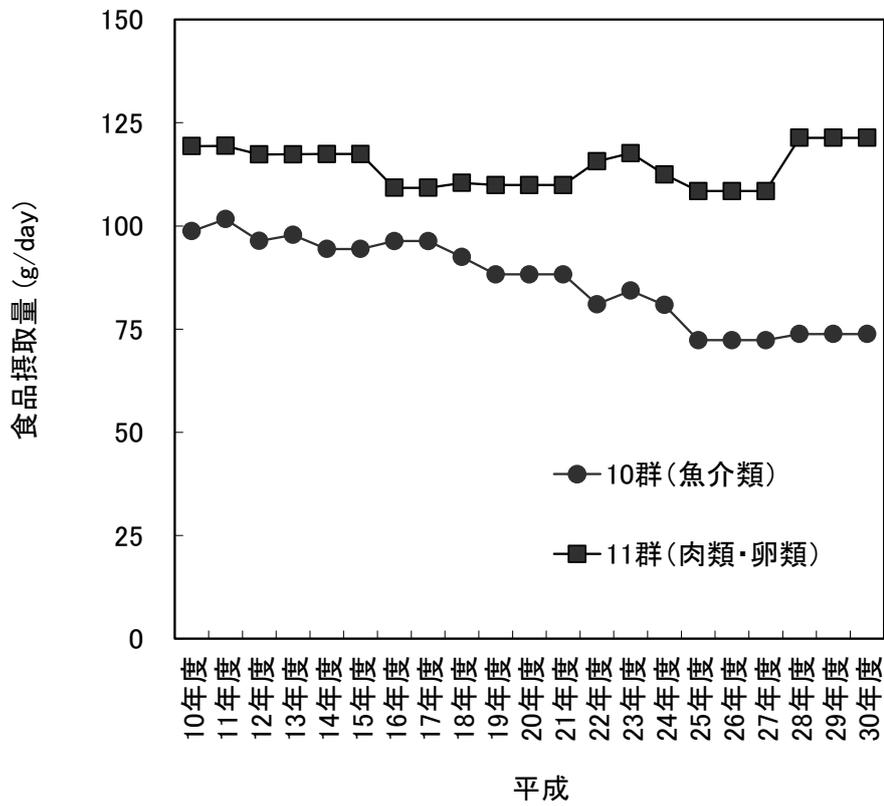


図3 10群及び11群の食品摂取量の経年変化

